

ロボット作りに挑戦

徳山小
児童 徳山高専の学生が指導

周南市の徳山小学校(海老原春生校長)で八日、徳山工業高等専門学校(徳山)の学生が指導する「ロボット教室」があり、五年生の児童三十二人がリモコンで動かすロボット作りに挑戦した。

子どもたちに物作りへの興味や関心を養ってもらおうと、両校が昨年度から始めた取り組み。本年度は、空き缶を磁石でつり上げるロボットを製作。児童は、九人の学生から指導を受けながらコントローラーの基板を作ったり、ギアボックスを組み立てたりした。両校によると、昨年度に受講した児童のうち二十六チームが、徳山高専のロボットコンテストに出場し、上位入賞や特別賞を獲得。児童の間で組み立て式のおもちゃが人気を集めるなど、物作りへの関心は高まっているという。



「子どもたちは(てきぱき)話して上手。いいロボットに仕上がります」と語り、五年生の残り六十三人が受講。十月下旬に校内のロボット大会を行い、徳山高専主催のロボコン(十一月)にも参加する予定。

徳山高専の学生の手助けを受けながら基板作りに励む児童